



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3202 号 2016.8.21 発行

トップは逆境を超えて 「元ホームレス社長」兼元氏なぜ上場企業をつくれたか オウケイ  
ウエイヴ社長 兼元謙任氏



日本経済新聞 2016年8月20日  
1度目の起業に失敗、妻に離婚届を渡され、家族も失いかけた。2年間のホームレス生活を経て2000年に兼元謙任氏が生んだ国内初のQ&Aサイト「オウケイウエイヴ（OKWAVE）」。「どん底からは上がり、06年には上場。海外展開も視野に入れる。約20年前、「これしかない」とサービスを思い立ち、事業を立ち上げた兼元氏の思いに迫る。

### ■初めての「カキコミ」で叱られる

——インターネット上でユーザー

の質問に対して分かる人が答えるQ&Aサイトは、今では広く認知されています。2000年当時、その仕組みはほとんどありませんでした。なぜ、つくろうと思ったのですか。

「自分が困って、実際にネットを通して質問したことがきっかけです。20年前、私はパソコンだけを持ってホームレス生活を送っていました。大学卒業後に工業デザイナーとして働きながら、車椅子でもぬれないレインコートをつくりたい、と会社を準備していました」

「自分が手足のまひなどを伴う難病、ギラン・バレー症候群にかかり、車椅子生活で苦労した経験があったからです。ところが頓挫した。妻にも別れを切り出されてどん底だった。これではいけない、と少しずつ始めた仕事が名刺のデザインです。その延長で『ウェブページを1枚1000円で作ってくれ』という依頼があった。ウェブなんか分かりませんでした。しかし、お金を稼がなければいけないから仕事を断るなんて選択はなかった」

「そこで、あるサイトに書き込んだのです。『仕事でウェブの制作を頼まれたのだが、食うためにもやらざるを得ない。どうしたらいいのか』と書いたら、『商売のためにこんなところに質問するなんて、お前、マナーがなってない』と注意されてしまった。そこで、困ったときに誰かに相談できる場所があればいいのにと思いました」

### ■カイゼンの「生みの親」の言葉を思い出して

オウケイウエイヴ社長 兼元謙任氏

——自分の経験が出発点だったのですね。

「私の生い立ちにも関係しています。在日韓国人の三世として生まれました。いわれなき差別を受け、つらい経験をしたこともあった。なぜこんなことがあるのか、こんなことがあっていいのか、誰にも相談できないままでした」



「大人になってからも、仕事が忙しいと家にもろくに帰らず育児をほったらかしにして、嫁に愛想をつかされても、誰にも相談できる場所がない。トヨタ生産方式を生み出した大野（耐一トヨタ自動車工業＝現トヨタ自動車＝元副社長）さんのいった『5回なぜを繰り返すと答えが見える』という言葉思い出したのです。一人で5回掘り下げて答えがわかるなら、たくさんの人とやりとりして共有すれば、よりいい気づきが得られる、と思った。それがQ&Aサイトが生まれた理由です」

「このサービスがあれば助かる人がいると、誰かにやってほしいと、いろいろな人に相談しました。ところがみんな『お前がやれ』と（笑）。それで、自分で立ち上げを決めました。しかしどこからも資金を貸してもらえなかった」

#### ■妻が待っていてくれた

——お金もない、貸してくれる宛てもない。どうされたのですか。

「ある映画監督が映画を撮るために結婚式を開いた、という話を聞いて。上野公園にテーブルをおいて、集めたご祝儀を元手に映画を撮ったんだけど、お前もこういうことやれば、といわれたのです。このとき、嫁さんを思い出しました。公園で寝ながら妻に悪いことをしたと思っていたし、ホームレスをしながら稼いだ金は手紙と一緒に送っていました。彼女はそのお金、約400万円をためていてくれたのです。謝ってこの仕事がしたい、と話したら『このお金を使っていいよ』といってくれた」

——今、オウケイウェイヴは上場もしていますが、人の善意を元手にビジネスがうまくいくかわからないですね。

「そもそも『見ず知らずの人の質問に正しくまじめに回答してくれる人がいるはずがない』といわれました。でも本当にそうかな、と。継続的に正しく書いてもらう工夫もしました。Q&Aにしたり、回答をしてくれた人にお礼をしたり、ランキングにしたり。スタートしたときに回答してくれたのは10人くらい。この10人が大事で、100人が1000人になっていく、と信じたかったです（笑）。今は月に閲覧者が約3000万人、回答者数は100万人を超えています」

「ビジネスも最初はうまくいきませんでした。事業計画には広告の収益などを書いて投資家を集めました。相手にもされません。助けてくれたのは、ユーザーでした。ユーザーがビジネスにするアイデアをくれたのです。コールセンターの代わりになるウェブ上のQ&Aサービスを顧客向けに自分の会社で使いたい、といわれて。今の主力ビジネスである『オウケイビズ』が生まれました」



#### ■なぜくじけないのか

——仲間も失い、家族も失って、ホームレスになる。それでも兼元さんはなぜ立ち直れたのですか。

「24時間365日考えてきたものを失ったり、妻に離婚届を渡されたり……。あのときは、プツンと切れてしまった。ゴミを拾って食べる自分を見て、子供を連れた母親が『あんな風になっちゃだめよ』といっても『別にいいじゃん、なるかもしれないじゃん』とっていました」

「取り払ってくれたのは、働きながら大学に通うある中国人女性でした。今までのことを泣きながら話したら、立て続けに何発も殴られたのです。彼女は中国の奥地に生まれて、物乞いをするような貧しい生活をなんとかしなければ、と日本に渡ってきた。『敗戦を乗り越え国内総生産（GDP）を世界2位にするまで成長した国に憧れて、私はこの国で勉強したいと必死で働いている。30歳そこそこでちょっといじめられたくらいで、こんなところで寝るな』と怒られたのです」

「しばらく悩みました。その後さらにショックなことがありました。あるチェーン店で余ったハンバーガーをもらって食べたら、妙にジャリジャリしているんです。腹痛と吐き気に襲われました。光の下でよく見ると、吸い殻が丁寧にハンバーガーに挟んであるのです。ホームレスに来られるのが嫌で、わざと渡している、このままじゃダメだと思いました。急にじゃないけど、ゆっくり立ち直りました。会社を回って頭を下げて、デザインの

仕事をもらうようになりました」

——ホームレスから立ち直り、起業した。何が支えとなったのですか。

「諦めたら終わりです。Q&Aサイトは、自分がずっとつかえていたものが取れると思いました。入院していた子供のころ、昨日一緒にしゃべっていた隣の子のベッドの上に、花が置いてあることもあった。次は自分の番かと思いながら、不安で仕方がなかったけれど、親にもその気持ちを相談できなかった。このサービスがあれば、世の中が明るくなると信じていたし、今も信じています」

「私がやりたかったのは、フローよりもストックです。スレッド（掲示板）でもメールでも、人に共有されたいですね。たとえば『この人ともう別れたほうがいいでしょうか』という質問に対して、様々な回答が書き込まれます。そのほかにも、関連質問として違う恋愛相談が表示されたら、『俺だけじゃない』『こういう場合もあるのか』と気が楽になる。だから、私はQ&Aを積み重ねて、消さないことにこだわりました。『エクセルの使い方』など、IT（情報技術）系の疑問は共有すれば、読んだ人の助けになります。掲示板に質問を残したくない、とユーザーにいわれることもありましたが、みんなの共有財産になるし、相談できないけど同じことに悩む人の助けになるでしょう」

兼元謙任氏（かねもと・かねとう）

1990年愛知県立芸術大学卒、デザイン会社や建築塗装会社などを経て、2000年にオーケーウェブ（現オウケイウェイヴ）設立。愛知県出身。50歳  
（松本千恵）

### 三大疾病への備え、保険の保障範囲広がる

日本経済新聞 2016年8月17日

日本人の死因上位を占めるがん、脳卒中、急性心筋梗塞の「三大疾病」。生命保険各社は三大疾病に備える商品をそろえているが、最近は保障の範囲や保険金が出る条件のばらつきが大きくなってきた。加入を検討するなら保険料だけでなく、どんな場合に保険金が出るのかよく確認しておこう。

「万が一のことがあっても、この子の教育資金が出せるようにしたい」。神奈川県の実業家、Aさん（42）は5月、長男（3）のためにオリックス生命保険の特定疾病保障保険「ウィズ」に加入した。Aさんが死亡した場合や、がんと診断されたり急性心筋梗塞で手術したりすると、1千万円の保険金が出る。

同保険は5月の発売。オリックス生命はこれまでも三大疾病の保険を扱ってきたが、急性心筋梗塞で手術しても保険金が出ない場合があった。60日以上、労働が制限されることが支払いの条件だったためだ。脳卒中も60日経過後にまひなど後遺症が残っていることが

#### 保険金の支払い条件は商品によってバラツキがある

（急性心筋梗塞、脳卒中の例）

- 治療目的で入院すること
- 所定の手術をすること
- 治療目的の20日以上入院または所定の手術
- 60日以上、労働の制限を必要とする状態が継続
- 60日以上、言語障害などの後遺症が継続



条件で、早期に快復すると保険金が出なかった。

#### ■条件にばらつき

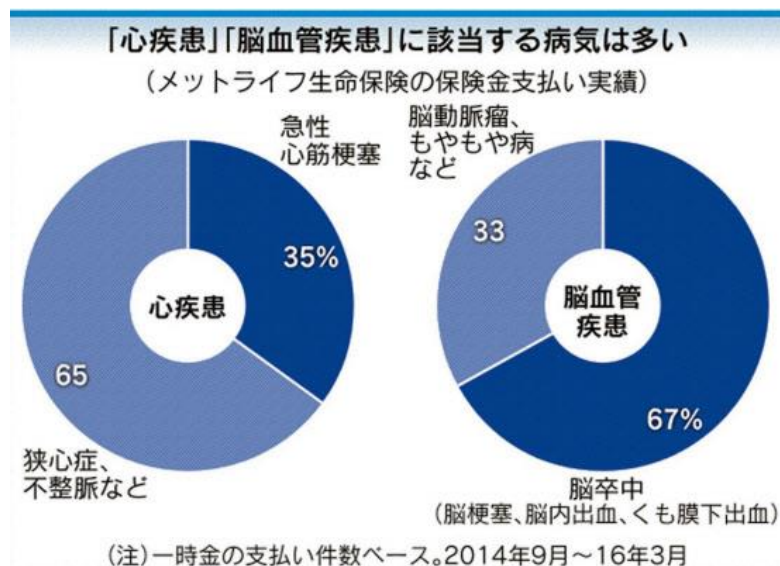
三大疾病の保険は急性心筋梗塞、脳卒中での保険金の支払いにこうした厳しい制約がある例が多く、保険契約の書類をよく見れば明記もされている。しかし必ず

しも十分に理解されておらず、早期快復した契約者や家族から生保各社に「どうして保険金が出ないのか」とのクレームが寄せられやすいという。このため一部の生保は支払い条件を分かりやすい「入院」「手術」などに変更してきた。

そもそも三大疾病の定義も商品によって異なる。悪性新生物（がん）、急性心筋梗塞、脳卒中とするのが一般的だが、例えばメットライフ生命保険の医療保険「フレキシィ」は急

性心筋梗塞を「心疾患」、脳卒中を「脳血管疾患」に広げている。例えば心臓の血管が狭くなって血液が不足する「狭心症」、脳卒中につながる「脳動脈瘤（りゅう）」なども三大疾病と認められて特約の保険金が出る。

定義を広げることで、どのくらいの影響があるのだろうか。同社がフレキシィを発売した2014年9月から16年3月までに支払った三大疾病特約の一時金を集計したところ、心疾患のうち急性心筋梗塞は35%にとどまり、狭心症や不整脈などが65%を占めた。三大疾病の特約には一時金だけでなく、その後の保険料免除がある。その分だけ保険料が高くなるが、契約者のメリットは少なくないようだ。



### ■時間かけ比較を

30～40歳代までの現役世代であれば、医療保険ではなく、住宅ローンの団体信用生命保険(団信)に三大疾病の特約を付ける選択肢がある。団信は住宅ローンを借りている人が亡くなったり、かなり重い障害を負ったりした場合、その時点で残っているローンを保険会社が肩代わりして返済する保険だ。がんと診断された場合や急性心筋梗塞、脳卒中で所定の状態になった場合も保障する特約がある。

保険料はローン金利に上乗せされる。三大疾病の場合はおおむね0.3%で、七大疾病などに保障を広げた特約もある。ただしそれぞれの金融機関の営業戦略に左右される面も大きく、ローン金利を高め設定する一方で、団信のがん特約の保険料の上乗せをしない銀行もある。

ローン金利の引き下げ競争が限界に近づく中で、金融機関は三大疾病などの保障を付けた団信の商品開発でしのぎを削っている。三菱東京UFJ銀行は4月、急性心筋梗塞、脳卒中で入院すればローン残債がゼロになる団信を扱い始めた。りそな銀行は三大疾病に限らず病気やケガで所定の状態になった場合にローン残債がゼロになる「団信革命」を扱っている。「ローンの借り換えで契約する人が多い」(コンシューマービジネス部)という。

団信の三大疾病の特約は月数千円の負担で数千万円規模のローン返済がなくなる可能性があるが、保障はローン完済まで年々少なくなる。がんなど三大疾病リスクが高まる老後も含めて一生涯の保障がほしいなら、その他の保険と組み合わせる必要がある。

民間保険は将来、生保各社の競争によって保険金は出やすく、保険料は下がる可能性がある。ただし既存の契約にさかのぼって反映されることはない。とりわけ急性心筋梗塞、脳卒中は保険金の支払い条件を変更する動きが相次いでいるだけに、時間をかけて比較するのも一案だろう。

さらに三大疾病などのリ

三大疾病リスクに備える主な保険	
一般的な仕組みや注意点	
死亡保障とセットの商品	特定疾病保障保険など。三大疾病で所定の状態になると、死亡保険金と同額の保険金が出る
医療保険の特約	一時金の支給や入院給付金の日数無制限などで三大疾病を他の病気より手厚く保障
住宅ローンの団体信用生命保険(団信)	加入できるのはおおむね50歳まで。所定の状態になると、その時点でローン残債がゼロに

スクを考える場合、公的な保障も頭に入れておこう。会社員であれば、病気やケガの療養のために休職すると、健康保険から最大1年6カ月、傷病手当金が出る。支給額はそれまでの給与の3分の2だが、税金がかからないため手取りベースでは3分の2より多くなる。初診から1年6カ月が経過した時点でも病気のため思うように働けない状態であれば、障害厚生年金が出る可能性がある。(表悟志)

#### ■がんで障害年金 2万人以上受給

厚生労働省の調査によると、がんで障害年金を受け取っている人は約2万1000人いる。安静が必要な重い病状の人が対象と誤解されがちだが、会社員の場合、軽い家事や事務ができる状態でも障害厚生年金の「3級」と認定される可能性がある。3級は年58万5100円の最低保証があり、約7000人のがん患者が受給している。

どんな病気でどんな状態になると障害年金が出るかは、インターネットの日本年金機構サイトにある「障害認定基準」に明記されている。ただ医療の専門用語が多く、患者や家族が完全に読みこなすのは難しい。受給の可能性がありそうなら、主治医などに相談するといひ。

#### <企業>ベテラン女子による上司への「逆パワハラ」対処法



毎日新聞 2016年8月20日  
人事に振り回されたベテラン女性社員の「逆パワハラ」が起きたワケとは

「パワハラ」といえば、職場内の優位性を背景にした上司から部下への嫌がらせなどが一般的ですが、職場の状況によっては部下が上司に嫌がらせをする「逆パワハラ」も起こりえます。実際、そうした状況に陥った会社の事例と解決策を特定社会保険労務士の井寄奈美さんが解説します。

#### ◇人事に振り回された事務職社員の「逆パワハラ」？

ある専門商社の子会社に、実質的に営業部の管理業務を仕切る社歴25年の女性社員Aさんがいました。Aさんは、一般職として専門商社に入社し、数年後、子会社に転籍しました。その際、当時の上司BさんがAさんを総合職に転換させました。それが、一般職で唯一転籍を命じられたAさんへの説得材料でした。

転籍したとき、子会社には営業で外回りなどをやる総合職の女性社員はおらず、結局、Aさんは一般職と同じ内勤事務を担当することになりました。その後、業績が低迷した子会社は、人件費削減のために事務を契約社員や派遣社員に担当させるようになり、総合職の給与体系が適用されるAさんの処遇が問題になりました。

今さら、Aさんに総合職として外勤の営業を担当させるわけにもいきません。そこで、「昇格させないこと」で昇給を最小限に抑える方法がとられ、親会社から出向した代々の管理職に引き継がれてきました。

Aさんは、昇格もせず役職にも付かないことに不満を抱き、それを逆にとるようになりました。業務改善などを命じられても「それは私の仕事ではありませんから」と積極的に関与しないようになったのです。上司から部下ではなく、部下から上司への言わば「逆パワハラ」のような状況になりました。

そればかりではなく、他の女性社員も、数年で親会社に戻る管理職よりもAさんの指示を優先したそうです。皆がAさんの顔色をうかがいながら仕事をするようになってしまったのです。

#### ◇当時の上司の安易な対応が問題をこじらせた

そうした状況で、子会社の業績立て直しを命じられた管理職Cさんが親会社から出向してきました。Cさんは着任早々、Aさんの処遇問題に対応しました。

Cさんは、本社人事部と相談した上でAさんと面談しました。そして、「Aさんの担当業務は派遣社員や契約社員がこなしている。総合職であれば外勤の営業を担当してもらいたい。内勤を希望する場合は一般職に転換してもらいたい」と伝えました。

Aさんは、すごいけんまくでこう言い返したそうです。

「私はそもそも一般職として本社勤務を希望して入社しました。会社の都合で子会社に転籍させられたのです。当時、同期の女性社員は本社に残りました。私を総合職に転換してくれた上司Bさんからは、内勤事務のままでもいいと言われました。25年以上事務をやってきたのに今さら納得できません」

転籍当時の上司Bさんは、本社の上席役員になっていました。面談後すぐに、BさんからCさんに連絡がありました。「Aさんの処遇についてはこれまで通りで何とかならないか」とのことでした。AさんからBさんに直接、相談があったのです。

実はこれまでも、管理職からAさんに処遇変更の打診をしたことがありました。しかし、そのたびにAさんがBさんに相談し、Bさんから管理職に処遇を変更しないよう指示が出ていたのです。

Aさんの転籍当時、その会社の女性社員の平均在籍年数は5年程度でした。Bさんは総合職に転換しても「辞めるまでの数年のこと」と考えていたそうです。Aさんに転籍を納得してもらおうための安易な対応であり、結果的にそれがAさんの処遇問題を引き起こしてしまったのです。

◇しかるべきポジションで能力を発揮してもらうことに

結局、会社は逆の対策を取りました。Aさんに役職をつけ、事務のとりまとめを任せただけです。役職と給料に見合った業務を担当してもらい、より積極的に部署の運営に携わってもらいました。もともとAさんの処理能力は高く、会社の業績に良い影響を与えました。

子会社がいくつもあるような大企業では、本社から管理職が異動してきては去っていきますが、子会社採用の部下の実務担当者は長年、同じ部署で同様の業務を担当し続けるケースもあります。管理職に積極的に協力せず、むしろ嫌がらせをする部下もいるかもしれません。Aさんのように管理職よりも社歴が長かったり、経営幹部と直接つながりを持っていたりする場合もあるでしょう。

そうした部下を「扱いにくいから」と冷遇したり、見て見ぬふりをしたりしては職場の運営に支障を来す可能性もあります。部下の不満を聞き出して解消し、しかるべきポジションで能力を発揮してもらえ環境を整えることが、「逆パワハラ」の防止につながるでしょう。

## 医療・介護負担増の議論本格化 年末までに結論 産経新聞 2016年8月20日

厚生労働省は社会保障費の抑制に向け、社会保障審議会（厚労相の諮問機関）の部会で医療と介護の負担増の議論を本格化させている。19日の介護保険部会では、厚労省が大企業社員らの介護保険料負担増を提案した。今後、政府の経済財政諮問会議が取りまとめた「経済・財政再生計画」改革工程表で指摘された項目について年末までに結論を出す予定だが、負担増への反対論は根強く、議論が難航することも予想される。

19日の介護保険部会で厚労省が提案したのは、40～64歳の介護保険料の算定方法として、収入に応じた「総報酬割」という仕組みを導入すること。現在は収入に関係なく健康保険組合や公務員らの共済組合ごとに加入者数で頭割りに保険料を算定しており、社員の多い中小企業社員の負担が相対的に重くなるといった問題点が指摘されている。

平成26年度決算見込みに基づく厚労省の試算によると、総報酬割の全面導入により、健保組合の加入者は労使合計で保険料が月平均727円増の5852円になる。共済組合も1972円増の7097円。一方、協会けんぽ加入の中小企業では241円減の4043円になった。

健保組合の中でも負担増になるのは1030組合で、379組合は負担減となる見通し

だが、19日の介護保険部会では健康保険組合連合会の代表らが「急激な負担増になるので絶対反対」「賃上げの足を引っ張る」などと主張。日本医師会の代表が段階的な導入を提案したものの、結論は先送りされた。

このほか、すでに介護保険部会では、訪問介護のうち掃除や調理、買い物などの「生活援助」について、要介護度が低い軽度者へのサービス縮小の検討に着手。車椅子や介護ベッドなど福祉用具のレンタルと、バリアフリー化する住宅改修に関しても、軽度者の自己負担化の議論を進めている。

一方、医療分野の負担増については、社保審の医療保険部会で本格的な検討に入っている。患者の自己負担を軽減する「高額療養費制度」のうち、70歳以上の負担増が主な焦点だ。

高額療養費制度は1カ月の自己負担額に上限を設け、それを超える費用は払い戻す仕組みだが、70歳以上は現役世代よりも上限額が低く設定されている。高所得者など条件によっては現役世代に近い負担を求められる可能性もある。

これらの医療・介護の負担増については、「経済・財政再生計画」改革工程表で「28年末までに結論」と明記されているが、「世論への影響が大きい」として参院選が終わるまで本格的な議論が封印されてきた。

ただ、今年6月に閣議決定された経済財政運営の指針「骨太方針」では、負担増の各項目について「改革工程表に沿って着実に改革を実行していく」と約束した。当面大きな国政選挙がない中、利害関係者の不満を乗り越え、どこまで負担増に踏み込むことができるのかが問われることになりそうだ。

## 糖尿病改善と予防へ、AIで助言...運動量や食事

読売新聞 2016年08月20日

経済産業省は、人工知能(AI)を使って糖尿病の改善や予防につなげる助言システムの開発に乗り出す。

患者の運動量や食事、体重変化などのデータを蓄積し、関連をAIで分析して、個々人に最適な生活習慣の改善方法などをアドバイスする。2017年度中の完成を目指しており、健康増進で医療費の削減につなげる狙いがある。

9月から糖尿病患者らを支援する民間企業などと連携し、軽度の患者約860人分のデータを収集する。患者の職場に体重計や血圧計を設置したり、スマートフォン向けのアプリやウェアラブル端末を使ったりして、歩数などの運動量や体重、食事内容といったデータを集める。

データは来年2月頃をめどにデータベースに集約する。

## 障害者が栽培 ブッキーニやミニトマト 旬の野菜特価でどうぞ 札幌・元気ショップ大収穫祭始まる 北海道新聞 2016年8月20日 新鮮な野菜が並んだ「大収穫祭」

障害者が作った商品を販売する札幌市中央区の「元気ショップ」(市営地下鉄南北線大通駅コンコース内)で18日、期間限定で野菜を特売する恒例の「大収穫祭」が始まった。

札幌や近郊の障害者施設が栽培したブッキーニやミニトマト、ピーマンなど約20種類の野菜を市価より安く販売する。9月にかけて、トウモロコシやカボチャなども並ぶ予定。ほとんどの商品が減農薬や有機など栽培方法にこだわっている。



元気ショップの開店は平日午前8時だが、施設から店に取れたて野菜が届くのは毎日午前11時前後という。副店長の大越美公さん(27)は「旬の新鮮な野菜ばかり。ぜひ足を運んで」と呼び掛けている。

9月18日まで。営業は午前8時～午後8時、土・日曜と祝日は午前10時～午後7時。問い合わせは元気ショップ(電)011・210・1147へ。(坂本有香)

### <残照>不屈の精神 障害者の就労支える 河北新報 2016年8月20日



仙台市青葉区折立に「仙台もぐらの家」を完成させた頃の星さん(右)と曾根さん=1984年、旅行先の秋田県内で

◎社会福祉法人一步一步福祉会理事長 星孝明さん(61)=仙台市青葉区、7月29日死去=

「絶対に、僕は死なないから大丈夫」。3月下旬、大腸がんで余命半年の宣告を受けると、妻のめぐみさん(47)にこう言い聞かせた。幼い頃に筋ジストロフィーを患いながら、障害者の自立を目指して電動車いすで奔走し続けた不屈の人は、新たな病にもひるんだ様子を見せなかった。

障害者が働ける場をつくろうと1979年、仲間5人と通所型施設「仙台もぐらの家」を、仙台市青葉区のアパートの一室で始めた。伝票整理の内職を請け負ったが、初任給は1人当たり2000円。翌年に企業と電線解体作業の受注契約を結び、事業を軌道に乗せた。

設立メンバーの一人で、もぐらの家の所長を務める曾根朝男さん(64)は「当時、障害者にとって就職の壁はとてつもなく高かったが、そこに風穴を開けようとした。先見の明があった」と振り返る。

借地を転々としながら事業を続け、81年ごろから自前の作業場の建設を目指した。毎週末、街頭カンパに立ち、コンビニエンスストアにも募金箱の設置を頼みに回った。活動が実を結び約3年後、現在地の青葉区折立に作業所を構えた。

95年に社会福祉法人「一步一步福祉会」を設立。2003年までに市内2カ所に通所型施設を新設し、さらに仕事に打ち込んだ。施設の管理から会計事務まで一手に引き受け、亡くなった当日も体調不良を押して職場に顔を出した。

福祉会が運営する3施設には現在、約100人の知的障害者らが通う。高齢化が進み、「彼らの親亡き後も、安心して生きていける新しい仕組みを作らなければならない」と意気込んでいたさなかの逝去だった。

「彼が抜けてしまった穴はあまりに大きい」。約40年間、一緒に走り続けてきた曾根さんは唇をかんだ。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行